



9がつの ほけんだより

令和5年度 9月 江上保育園 ほけんだより

知っておくと安心

子どものケガの応急手当



【きり傷・すり傷】

水道水で傷口の汚れを洗い流します。清潔なガーゼで圧迫止血します。絆創膏や包帯などで固定しましょう。



こんな時は病院へ・・・
傷が大きい・深い。傷口に異物がある。腫れて痛みが強い。

【打撲】

頭の出血は傷口をガーゼで圧迫して安静に。手足の打撲はタオルで冷やします。

こんな時は病院へ・・・

頭：たんこぶがある。一瞬でも意識を失った。嘔吐・頭痛がある。



直ちに救急車を呼ぶ・・・

頭：意識がおかしい。けいれんした。目や耳の周りにあざがある。
胸・おなか：強く痛み顔色が悪い。苦しそう。呼吸が速い。
手足：変形し、その場所より先の血色が悪く、触られた感触がない。

【やけど】

直ぐに流水で20分間は冷やします。服の上から熱湯を浴びた場合は、着衣のまま流水で冷やします。

こんな時は病院へ・・・

面積が広い時：冷水で20分間冷やし、すぐに受診。
顔や頭・指の関節：範囲が小さくても受診。
※医療機関が遠い場合は、救急車を要請しましょう。

たくさん遊んでケガをしにくい体を作ろう



かけっこやスキップ、ボール遊びなどは体の軸や運動能力が鍛えられ、転びにくくなります。ご家庭でも楽しく遊びながら、ケガをしにくい体を作りましょう。

小児救急電話

80000

発熱・頭をぶつけた・嘔吐などで心配な時は

休日・夜間の急な子どもの症状にどう対応したらよいか、判断に迷う時に、短縮電話番号#8000に電話すると、小児科医・看護師から症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。



子どものケガを防ぎましょう



乳幼児期は転んだりぶついたり、いろいろなケガをしやすい時期です。安全のために危険な事やしてはいけないことを伝え、子どもとの間に、ケガをしない為の約束事を決めておきましょう。



はさみでケガをしないように



●ひとにわたすときは、とじたままわたす



●おとなのひとがいるところをつかう

くちのなかのケガをしないように



●はぶらしをくちにいったままあるいたり はしったりしない
●フォークやはしをくちにいったままあるいたり はしったりしない。



ころんでケガをしないように



●くつのかかとはふまない
●くつのべるとはきちんととめる
●くつがきつくなったら
●おうちのひとに
いおう